

\*「ポレーシェ」とは、チェルノブイリ付近の湖沼低地帯をいう



## 「菜の花の種まき会」開催！

9月27日、救援・中部と放射能測定センターが参加している『南相馬農地再生協議会』による、『菜の花の種まき会』が開催され、延べ100名を超す参加者がありました。

午前中は、常磐線磐城太田駅近くの圃場で種まき、同時に土壌中の雑草の根を取り除いて、後々の雑草対策を兼ねた心遣いもありました。40名近くの相馬農業高校生の皆さんも参加してくださり、「南相馬市の将来にも望みがある」と感じられました。終了後は、太田学習センターへ移動して待望の昼食タイム。会員の奥様方による手作り料理で、天ぷら・カボチャの煮物・サンマの煮物・豚汁・胡瓜の漬物等々、南相馬市産の食材を中心としたメニューが提供されました。天ぷらは、もちろん今年の菜種から搾った『菜種油』で揚げたものです。調理を担当した方から「たくさん揚げ終わっても油に劣化が見られず良質！」との声もあり、油っこさが少ないと好評で、素朴な地元料理に皆さん満足された様でした。

午後からは、南相馬での話をもとに、広島のパランティアの方が描かれた紙芝居を安部さんの語りで、次に、杉内さんから協議会発足から現在までの推移、相馬農業高校の生徒さん達から農業クラブの活動状況、エコエネの中山さんによる再生可能エネルギーなどへの取り組みについての活動報告が行われました。特に、相馬農業高校生の若者達が、将来に向けた希望を語りかけていた姿勢に対して、期待を込めて賞賛の声が上がっていました。



## 『油菜(ゆな)ちゃん』誕生！！

帰りに、今年産の菜種から搾った『油菜ちゃん』がお土産として配られ、相馬農業高校生によるネーミングとデザインにより一新されたラベルも、大好評でした。

当「放射能測定センター（とどけ鳥）」は、放射線量の測定だけではなく、日頃の活動を通じて、放射線汚染に害された地域の再生などに向けた、核としての機能を果たしていると自負しております。今後とも、菜種の刈り入れ・搾油・製品販売と続きます。よろしくお祈いします。  
(とどけ鳥 小林 岳紀)

〒466-0064 名古屋市昭和区鶴舞 3-8-10 愛知労働文化センター B1

**NPO 法人 チェルノブイリ救援・中部**

銀行 名：三菱東京 UFJ 銀行 名古屋営業部（店番号 150）

口座番号：普通 6949211

口座名義：特定非営利活動法人 チェルノブイリ救援・中部 理事長 原 富男

郵便振替：00880-7-108610

TEL / Fax：052-732-7172（月・水・金 10:00 ～ 17:00）

ホームページ：<http://www.chernobyl-chubu-jp.org>



チェルノブイリ救援・中部

☆前号では、菜種収穫報告と測定模様を報告しました。今は稲の収穫時期に当たり、測定所は、分解した稲の各部位の検体と、市民が持込んできたきのこ類であふれています。米関係の測定は 10 月からとなります。きのこ類についての速報値では、相双・飯館方面で収穫されたものは汚染も高く、食べることはできません。ほとんどの方が「これもダメだろうな...でも測って欲しい」と持ち込まれ、「食べられません」と数千 Bq/kg の測定結果を示されると、「やはりだめか...食べたいな...」と悔しそうでさびしそうな顔をして帰られます。

今年度に入り 1,470 検体で、前年比約 86%です。市民のみなさんは、「菜園の野菜類は汚染も低くなっている。しかし、野生のきのこ類・山菜類はまだまだ汚染度が高い」と、多くの方が認識していると感じています。しかし残念な事に、「もう 3 年も経ってるから大丈夫だべ」と、野生のきのこ類を食べている人がいることも多々耳にします。行政の広報や新聞・テレビ報道で、「もう安全だ!」と思い込み、不用意に無意識的に野生の物・貰った物を測定せずに食べる事が内部被曝の増大につながる危険性を、チェルノブイリの教訓に基づき知らしめる必要があります。「検査してから食する」この習慣の徹底こそがまだまだ必要であることを痛感し、とどけ鳥の存在をもっと広める努力が、今も求められていると感じています。

☆えこえね南相馬が進めている「半エネ半農」モデル事業（エネ庁）に採用されたソーラーシェアリング 8 事業は、本格的に設計・事業計画の準備に入り、農業委員会へ順次申請予定ではありますが、2 月末までの完了はかなり無理があり、事業の延長申請も視野に入れざるを得ない現状です。その上に、九州電力に続き東北電力もまた、「再生可能エネルギー電力を買い取る契約受付を、10 月 1 日から中止する」と発表し、先行きが不安視されてきました。各電力会社が、積極的に送電網への接続受入容量の引き上げ対策を取る事が望まれます。

☆9/27、113 名の参加者を得て、南相馬農地再生協議会主催の「菜の花の種まき会」が開かれました（P1 参照）。来年度に向けた活動の第一歩です。今年は原町区陣ヶ崎地区 7 軒の農家の協力もいただき 20 町（約 20ha）超の見込みとなり、10 月中旬までに播種を終える予定です。

今年 6 月下旬、収穫した菜種を絞った菜種油「油菜ちゃん」が出来上がり、「菜の花種まき会」でお披露目しました。「油菜ちゃん」は、今年は 2 種類の瓶詰を行い、10 月 20 日以降本格的に販売予定です。価格は 1,000 円/300ml、2,500 円/900ml（税別）。相馬農業高校農業クラブの生徒たちも、「油菜ちゃん」を使ったドレッシングを開発中で、今後連携しながら、地域発の商品と新しいレシピを発信していけたらと考えています。南相馬農地再生協議会は、多くの課題を抱えています。皆様のご寄付、助成金でコンバインは購入でき、収穫作業は順調に推移できました。しかし、その後の乾燥・選別作業に大きく手間取り、製品化が大幅に遅れてしまいました。その上、搾油の為にナタネを栃木県内まで運び込み、製品引き取り等々周辺作業に忙殺されています。これらをクリアして行かなければなりません。

10 月 2~3 日に、菜の花先進地「青森県横浜町」を視察訪問し、乾燥・選別・搾油等の技術面と、菜種油を使用した多くの 6 次化商品開発の勉強をしてきます。読者の皆様の、より一層のご支援と「油菜ちゃん」購入をお願いいたします。

☆第 8 次放射線量率測定作業を、10 月 18~19 日、25~26 日の延べ 4 日間実施します。今回も、南相馬市と浪江町全域の測定を実施する予定です。現地集合のボランティアは、まだ若干名余裕があります。ご連絡ください。測定マップは 12 月初旬には発表する予定です。



¥1,000/300ml と ¥2,500/900ml  
の 2 種類販売（ともに税別）



## とどけ鳥(放射能測定センター・南相馬)のメンバーとして

(小林 友子)

私が「放射能測定センター(とどけ鳥)のメンバーとして、フルに活動を始めたのは、今年の春くらいからです。それまで、メンバーとして活動していた四人が、就職や病気・出産で抜けてしまい、補充員として参加しました。以前から測定センターやチェル救の行事には、時々顔を出す程度でしたが、食品・水・土などの放射能検査の受け付け、測定結果用紙の整理、苦手な会計等が主な活動となりました。

メンバーの紹介をします。只野さんは無口ですが、自衛隊と福島第一原子力発電所での勤務の経験を生かして、測定の的確な作業と、測定結果を受け取りに来た人にきちんと説明と対応をしてくれ、週三日フルに活動してくれます。鈴木さんは、営業販売の経験を生かして、試験栽培の稲から玄米にする粳摺り機の扱いと、菜種から油を搾る搾油機のスペシャリストとして頑張ってくれて、いつもニコニコと週二日来てくれます。小林岳(私の旦那)は、測定作業よりパソコンの前でブログ書き込みとデータ整理をしている、とてもヘビースモーカーです。センター長の神谷さんは、毎週名古屋から南相馬に通い細身の身体で「南相馬農地再生協議会」と「測定センター」の仕事を頑張り、この南相馬市を支えてくれています。

とどけ鳥は今、大量のキノコが持ち込まれ、測定に追われています。市民からの持ち込みが主で、マツタケ・イノハナ・ホウキモタシ・本シメジ・サクラシメジ・アミタケなど、食べられるキノコで溢れています。三年間、採って食べるのを我慢していたのを、「そろそろ食べられるかな?」と思って採ってきたり、いただいたりしたキノコです。測定に来た人の思いはとても分かります…食べたいのです。でも、心配なのです。キノコに、放射能がどれだけ含まれているのかを知りたいのです。

残念ながら、南相馬市内で採れた野生のキノコで、食べられる数値を示している物はひとつもありませんでした。皆、期待を込め「もしかしたら…」と思って来るのです。もう3年半経ちましたが、まだ3年半しか経ってないのです。また、畑で栽培した野菜や果物などに含まれる放射性物質は、今年の場合、測定したものの殆どが、20ベクレル以下で、国の基準からすると食べても良いとされているのですが、「子ども達や孫には食べさせない」と言って、寂しそうに帰って行きます。

それでも、畑で野菜や果物を作りたいし、食べたいし、人にあげたいし、野山で春はワラビやゼンマイ・コゴミ・たらの芽、秋は栗やキノコ狩り、海や川では魚釣りもしたいのです。ここで暮らす人の楽しみと生きがいのため、「毎日食べても大丈夫ですよ」と言われる事を期待して測定に来るのです。

フクシマで、南相馬で、暮らして、生きていくと言う事は、この現状を見て、調べ、知って、学び続ける事なのです。私も含め、南相馬の人達は、放射能とどう向き合って暮らして行けば良いのかを、とどけ鳥で学んでいるのです。測定に来る方は、以前は年配の方が多かったのですが、近頃は若い方も多くなりました。



2枚1組で300円です。



<広島県の高校生が視察に訪れました。

(2014.0824) >

一人一人検査結果を聞いて、学んで帰って行きます。チェルノブイリのように30年以上経っても、この南相馬で放射能の事を見て、調べて、聴いて、学べる所が続いていたら、素晴らしい事だと思います。測定データと経験の蓄積が、これからは大事になるからです。

フクシマを忘れないでください。

いつか、また同じ事が起きませんようにと願い、チェル救と測定センターとどけ鳥の支援のため、「小高駅のクリアファイル(左写真)」ができました。よろしくお願ひします。

「なたね油」は汚染しない

2007年からウクライナで始めた「ナロジチ再生菜の花プロジェクト」の概念図である。汚染土壌を植物の力を使って浄化する「バイオレメディーション」を実際の汚染現場で実施したのは、我々が世界でも初めてである。要約すれば、汚染しやすい植物（この場合なたね）で土壌から放射能を吸収し、ゆっくり土壌を浄化しながら、なたね油を利用する。なたね種子その他のバイオマスは強く汚染するが、「なたね油」は全く汚染しないので安心して利用できる。ゲルマニウム半導体検出器の測定で、検出限界 0.03Bq/Kg でも Cs137, Cs134 とともに ND（検出せず）である。

一方、期待した土壌の浄化速度は遅く、土壌中放射性セシウムの年間減少率は 5%程度であった。しかし、なたねの裏作の小麦やライムギ、大麦や蕎麦などは大幅に汚染が下がり、食用や家畜飼料に利用できることが分かった。これは新たな発見である。連作障害があるなたねとその他の作物の輪作で、汚染した土壌でも農作物の生産は可能なのである。「なたね油」は、ウクライナではバイオディーゼル燃料として利用したが、日本では食用油として利用する。

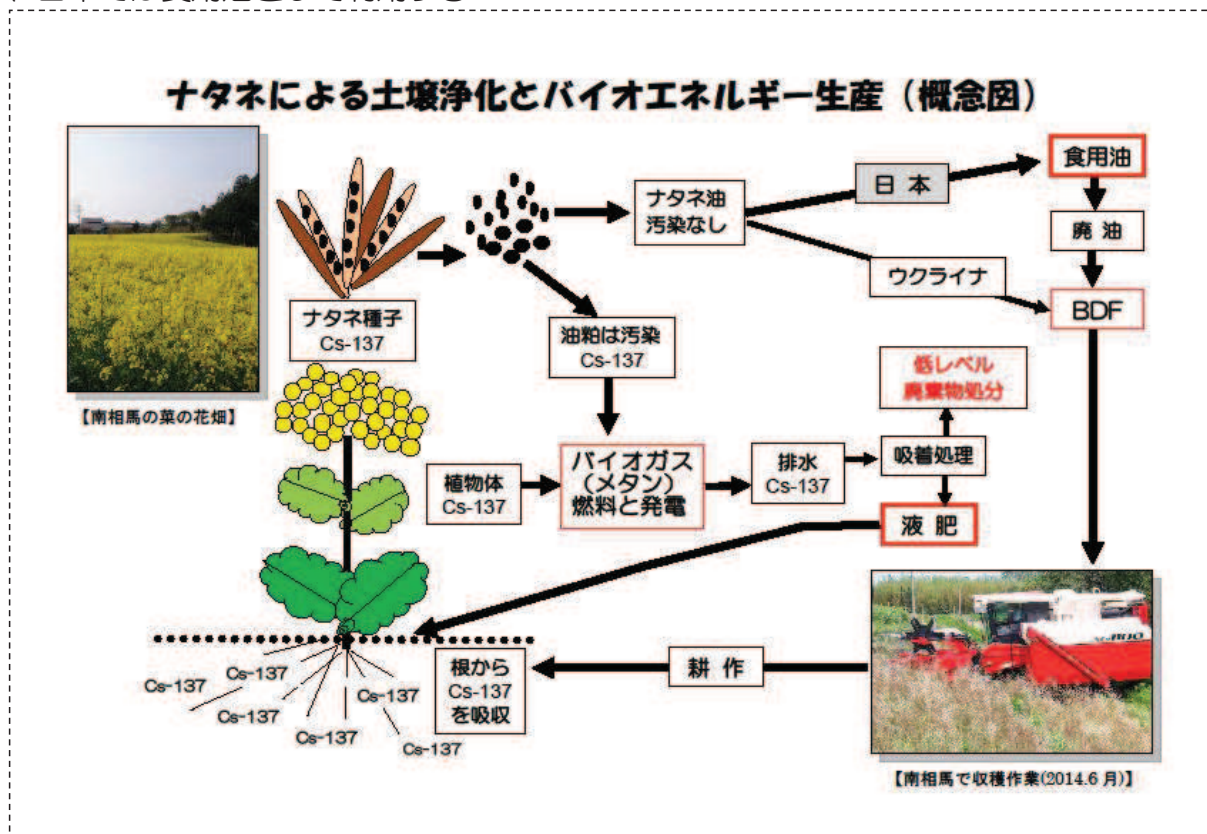
放射能は何処に？

搾油後、放射能はすべて油粕その他のバイオマスに含まれる。これらのバイオマスは、メタン発酵で「バイオガス」原料として利用する。バイオガスは、冬場の温室の加温や発電に利用することができる。放射能はバイオガス装置の廃水に含まれるが、これは吸着材（ゼオライト）で吸着し、減容して低レベル廃棄物として処分する。吸着後の廃水は、液肥として畑に散布することができ、循環型の廃棄物処理システムが完成する。なたねに限らず、大豆油・エゴマ油・ヒマワリ油などの植物油は、同様に汚染しないことが分かっている。

現在、国内の植物油自給率は 4%未満で、なたね油（キャノーラ油）のほとんどは、カナダ産の遺伝子組み換えなたねの化学抽出油である。

汚染しない安全な植物油を福島の特産にし、食用油自給率向上にもつなげたい。同時に、バイオガスで原発に依存しない持続可能なエネルギーの自給も目指す。

これが菜の花プロジェクトの未来図である。  
(2014年9月22日 河田)





## 「チェルノブイリからの手紙 —10年目のチェルノブイリ—」

の再版を計画しています。(美)

この冊子は、私達「救援・中部」が、今から20年近く前に行った、ウクライナと日本のお母さん達の「文通の架け橋」事業の中で、ウクライナから届いた56通の手紙をまとめたものです。

今なお続くチェルノブイリの悲劇、そして、日本（フクシマ）への教訓が、つづられています。

<抜粋（No.33より）>

**「日本のお母さま方、お子さんの健康を思い煩うことなく、  
ぐっすりお休みになれますように」**

1996年3月3日 チハリ・オリガ・ボリーソブナ

こんにちは！ お手紙をいただき、大変ありがとうございます。

現在、ウクライナの生活は困難なものです。経済は横ばい状態で、無秩序、物価高、生活条件は悪くなっています。ウクライナ政府は、どうかしようとしてやっていますが、無駄に終わっています。

私の家族は、イミリチノ町の国営アパートに住んでいます。ジトーミル市のアパートをもらおうと、もう3年も順番を待っています。家族全員が病気なので、汚染地帯から出て行きたいのです。

私と夫は働いていますが、お給料はわずかで、家族を食べさせるだけで精一杯です。

今年は、私たちにとってとりわけ辛い年でした。7キロ離れた村に住み、精神的にも、経済的にもいろいろと助けてくれた母が亡くなりました。家財道具は、置く場所がないので持っていません。

お手紙をくださり、優しいことばを掛けてくださってありがとうございます。日本の家族との文通に満足しています。あなたの国のご成功、喜ばしく思っています。

あなたの国の皆様が、どうぞご健康でいられますように。お母さま方、お子さんの健康を思い煩うことなく、ぐっすりとお休みになれますように。チェルノブイリの事故が、世界で二度と繰り返されませんように。皆様、お幸せに、うれしいことがたくさんありますように。 さようなら！

## 東海発フクシマ支援は なかなかのものです

(市原 佳代)

9月27日、名古屋NGOセンター主催の「震災／フクシマから見直す暮らしと社会」と題したシンポジウムに参加しました。チェル救を含む東海地区5団体の東北支援の紹介、そして、今後のNGO活動の可能性や、震災前に行っていた従来の活動との相乗効果などについて、ディスカッションを行いました。継続して支援を行っている団体は、被災地の声を丁寧にすくうことで、支援に生かしてきた団体です。拠点をつくり、被災者・スタッフ・ボランティアの垣根を取り払い、被災地に溶け込んでいます。

テレビ電話で小学生の日常の何気ない話に耳を傾け心のケアをする団体、“せっかく助かった命を復興の過程で失わせたくない”という信念のもと活動している団体、さまざまな熱い思いがとても頼もしく感じられました。反面、声すら出せない弱者の支援ができていないのか、復興の格差や被災者の問題

の個別化・複雑化への対応、など悩みは尽きません。そして原発・地震・津波で助かった人たちに襲ってきた放射能汚染、その苦しみの根源は何なのか。私たちは自らの暮らしを通して考える必要があります。今まで被災地のことが気になりつつも行動に移せず、今日思い切ってきてみてよかった、という参加者。復興の道のりは長い、だから一人でも多くの人たちを支援の渦に巻き込むことが重要だと思いました。

### チェルノブイリ/フクシマ講座(第9回)

～ お知らせ ～

—3.11 フクシマ避難

あるべき社会と生き方を模索して—

お 話：小野 剛さん・佳奈さん

日 時：11月30日(日)

午後1時30分～4時

場 所：ウィルあいち セミナールーム2

参加費：500円(お茶菓子つき)



## 地球という名の汚れていない家に住みたい！

(小牧 崇)

昨年に続き、今年も福島の子供達を伊那に迎えました。期間中、何よりも強い印象を受けたのは、自然の中で嬉々として遊ぶ子供達の姿でした。帰り際に、彼らが残していった言葉…「魚と川遊びがおもしろかった」「乗馬や川遊びなどとても楽しかったです」「放射線を気にせず、自由に遊ぶ姿を見るとうれしく思う(父親)」…を拾ってみても、圧倒的に自然と触れ合う喜びを語っています。こうした子供達の姿を見て、リフレッシュツアーを実施して本当に良かったと思うとともに、普段は自然と触れ合えない汚染地域の生活の厳しさを実感しました。そして十年余り前に読んだ、ウクライナの汚染地帯に住む子供の文が蘇ってきました。その一部を紹介します。



『…きれいな大地は、もう存在しないかのようです。最初の汚染のシミは大きくなっていき、いつそう遠くへと広がっています。でも私たちは、森を散歩したり、草の上に座ったり、手を太陽に差しのぼしたり、露に濡れたり、泉の水を飲んだり、木の実を味わったり、生きた自然のかなでる永遠の音楽に耳を傾けたりしたいのです。しかし、チェルノブイリの警鐘はもう十六年も鳴り続けており、失われたものをよみがえらせるためには、さらに何千年もかかるのです。そして、何千人もの子供達に、その警鐘は注意をうながしています。「気をつけて一放射能だよ!」と。でも私たちはただ、地球という名の、汚れていない家に住みたいだけなのです。 8年生 オリガ 』

両者は 8000 キロも隔たっていますが、事故によって受けた災難は変わりません。ウクライナの子供達は、それでも年に何週間かの保養が保障されています。一方、日本ではそうした対策がほとんどとられていません。たとえささやかであれ、私たちの取り組みが意味を持つ所以です。

8月17日、全国紙にIAEAの元保健部長と東大医学部放射線科准教授N氏が登場する「放射線についての正しい知識を」と題した政府広報(全面広告)が掲載されました。N氏曰く「…わずかな被ばくを恐れることで、運動不足などにより生活習慣が悪化し、かえって発がんリスクが高まるようなことは避けなければなりません」…こんな発言が大手を振るっている限り事態は変わらないでしょう。

## 親子リフレッシュツアーのボランティアに参加して (兼松真梨子)



灼熱地獄の名古屋を抜け出して、7月26日から4日間、伊那での「親子リフレッシュツアー」にボランティアとして参加してきました。去年からずっと気になっていたこのツアー。少し不安もありながら、でもとても楽しみにしていました。伊那の豊かな自然、美味しい野菜…こっそり自分のリフレッシュのためでもあったわけですが。

私が4日間で任された主なお仕事は、炊事係です。この炊事係は大変面白い仕事でした。とにかく、40人分とかの量をわあーっと作るの、給食のおばちゃん気分です。

伊那で採れたお野菜が大量に調理場にあり、これでもかというくらい野菜を切る! しかも、なかなか手の込んだ雑穀料理だったり、シェフの作る美味しいコロケだったり、メニューも豊富でした。子供達もお父さんお母さんたちも、「これ何? わあすごい。」

と良く食べてくれて、とても充実した気持ちでした。お話を聞くと、「普段忙しくて、こんなに三食しっかりと食べさせられずに、ついおやつでごまかすこともある。だけど、この4日間はおやつを欲



しがりませんでした」と。それに、子ども達もいつもよりたくさん食べてくれていたようです。やっぱり、外でよく遊び体を動かすと、ごはんもたくさん食べられるし、おやつも少しで済む。外遊びが思いっきりできない福島では、子ども達も運動不足にもなるし、ストレスがたまるだろうなあと感じました。始めはおとなしくしていた子ども達も、2日目にはもうみんな仲良くなり、下は低学年から上は中学生くらいまで、部屋中を走り回って元気なこと！！途中、けんかがありつつも、お母さんがいるので運営側も安心です。最終日前夜、大人だけの交流会があり、色々なお話を聞くこともできました。震災前はお父さんが漁師さんだったけど、船も家もダメになり仮設で生活されているというご家族は、「家を再建するのか、船を再建するのか」で、いつも喧嘩になるとおっしゃっていました。

今までの当たり前の生活が一瞬で消えてしまったことに、胸が苦しくなりましたが、4日間子ども達の笑顔が見られてとても嬉しかったです。帰りのバスを見送るとき、「また現実に戻らなくてはいけないんだな」と思うと悲しくなりましたが、たとえ4日間でも放射能から離れて目いっぱい羽を伸ばしてもらおうことができよかったです。



また、来年もぜひお手伝いしたいです！ありがとうございました。

## 二年目のリフレッシュツアー 通年カンパ始めます！

(信州伊那谷リフレッシュプロジェクト代表 原 富男)

7月26日から29日までの3泊4日、福島県の親子を迎えてリフレッシュツアーを行いました。会場は昨年と同じ、長野県伊那市長谷村溝口地区の溝友館をお借りできました。

今年のツアーは、伊那では2回目となりました。昨年は初めてだったため、無我夢中で気合が満ちており、カンパ集めも必死の思いでやりました。しかし今年は、慣れもあり資金も昨年の繰越金があったこともあり、ゆっくりスタートとなりました。昨年に比べバス代が大幅にアップしたにもかかわらず、カンパ集めが遅れてやきもきました。バス代の値上げの理由は、バス事故が多発し、国土交通省による「乗務員2人体制」の指導があったためです。これにより人件費、宿泊代などが上乗せとなるため、交通費関係だけでも1.5倍程度の値上げとなりました。結果的にはギリギリのセーフでしたが、ツアーの資金集めは短期間ではムリだということが解り、これからは通年で資金集めを行うことにしました。

昨年は親子19名でしたが、今年は「親子25名バス満杯」の参加をいただきました。スケジュールは、初日はウエルカムパーティー。2日目は、地元溝口地区社会福祉協議会の招待で、「イワナの掴み取り」&「バーベキュー」に参加させていただきました。子ども達は、逃げ回るイワナをびしょ濡れになって追いかけ、その様子を見る親たちにも笑顔が広がりました。この日はその後、南相馬市出身の大亀さんの案内で「中央構造線 溝口露頭」や長谷公民館で化石見学、鹿嶺高原散策なども行いました。3日目は、高遠の宇野農場での野菜収穫の後、蕎麦打ちを体験し、昼食にいただきました。午後からは高遠の山室川に移動し、水遊びと乗馬を楽しみました。地元の我々から見れば「どうということのない川」が、福島の子供達にとっては「貴重な遊び場」となっていることに、新鮮な感動を覚えるとともに、福島の放射能の日常を考えざるを得ませんでした。また、現在も福島第一原発で事故処理作業をされているお父さん親子も参加されていました。

ツアーの募集に関しては、南相馬市の委託を受けた「こどものつばさ」さんに、募集・抽選・送り出しなどをしていただき、大変助かりました。「募集メンバーの固定化」や「ツアー数の減少」の中で、「市によるツアーの応援体制」は他に例がなく、福島県の他地域にも広げるべき事例だと思います。

ツアー運営委員会では、ツアー終了後、早速通年カンパを開始しました。また、資金の助成先探しなどもはじめました。今後ともご協力をお願いします。

## <ウクライナの政変&これからのウクライナ>

(ホステージ基金代表 ドンチェヴァ・エヴゲーニャ)

2014年は、独立・自立した国家としてのウクライナにとって、大きな試練の年となりました。私たちの国民としての自覚、そして世界に対してのみならず、まず自らに対して、私たちは自立しており、豊かに繁栄できる国だと証明する能力を試されているのです。私たちは、汚職や官僚の専横のない、民主的な社会に暮らしたいと思っており、透明な課税と公正な裁判を求めています。これらすべては、過去から私たちに残されたものですが、人はいつも新たな進歩した将来に目を向け、それに向かって努力するものです。



<キエフ・マイダにて(2014.09)>

残念なことに、このよい意図は地政学的プロセスの壁にぶつかりました。そして、ウクライナは内乱状態に陥りましたが、ウクライナの政治家たちは、それを「対テロリスト作戦」と呼ぶ方を好んでいます。しかしどんな戦争も、死者と負傷者、母親たちの涙、不安で眠れない妻たちの夜なのです。私たちの敵が、昨日までは兄弟のようだった友好的なスラヴ民族であるという事実を受け入れるのは、気持ちの上で非常に辛いことです……。

「たぶん、世界は頭がおかしくなってしまったのよ」と私の仕事の仲間が言います。彼女の姉は、家族と一緒にモスクワに住んでいるのです。超大国のロシアの政策と、ヨーロッパ諸国のように暮らしたいというウクライナの単純な願いに引き裂かれた家族は、どうすればよいのでしょうか？ こういった疑問には答がないまま、みな何かを待っています——奇跡を、と書きたい思いです。でも、奇跡が起こるのはおとぎ話の中だけで、現実にあるのは、経済危機とドンバス地方の廃墟、何千人もの避難民と新たな最高会議の選挙です。

ウクライナ東部の軍事行動と破壊されたインフラのせいで、国家経済は崩壊し、そして当然、私たちにとって今日必須であり、EUに要求されている、新政権による有効な経済改革は不可能になってしまうかもしれません。

今、ウクライナの経済は戦時経済に改組されなければならない、それは国家予算の割り当て変更をもたらします。ヤツェニウク首相によれば、ウクライナは1日の戦争に8000万グリヴナ(約615万ドル)を費やしているのです。どんな改革が可能だというのでしょうか？

私たちは、ガラスのようにこわれやすい今の和平が守られることを、心から願っています。しかし、たとえそれが長続きするものであっても、私たちは、破壊されたインフラの復興と、将来の戦争の脅威を防ぐために、多くの資金を用いなければなりません。今、「平和を望むなら、戦いに備えろ」という言い回しが非常に流行しています。つまり、以前経済につき込んでいたお金が、これから軍隊と軍事産業に回されるということなのです。そしてそれは、近い将来、ウクライナで社会保障費が削減され、失業率が増えるということを意味します。最も無防備な層の国民、つまり、年金生活者・障害者・学生たちが苦しむことになるのです。

ウクライナはおそらく、独立以来最も困難な時期を迎えており、それは経済的な問題だけではありません。世界に対して、自らの独立国としての価値を証明しなければならないのです。そして、もしかするとそのために、ウクライナ国民は今特に結束を固め、国として団結しているのかもしれませんが。国歌が一番ポピュラーな歌となり、ウクライナ国旗がいたるところで見られるのはそのためです。私たちの一人一人が誇りを持って、「私はウクライナ人」と言っています。

それは、これらの困難も終わりを告げる時が来て、私たちのウクライナが最も美しい、最も豊かで民主的な国になり、ウクライナ人たちが世界で最も幸福な国民になると、本当に信じているからです。ウクライナに栄光あれ！



## ウクライナで「平和の太陽キャンペーン」－ 8月6日9日 広島・長崎 原爆の日よせて

2014年8月、69回目の「原爆の日」に、ホステージ基金から追悼のメッセージが寄せられました。

「街が 耐え難い苦痛の中で 焼けただれた口を 開いた...

みんな、聞こえるか？ 歌っている、広島が歌っているのだ！

...みんな!! 聞こえるか？ 歌が鳴り響く、 巨大な苦悩の歌が。」

このような、心の奥底まで届く言葉で、日本の詩人しみず・たかのりは全世界の人々に呼びかけています。この詩行は今日書かれたものではありませんが、今に至るまでその響きを止めることがありません。広島は、長崎の悲劇とともに、忘れることのできないものだからです。忘れることができないのは、それが過去だけでなく、人類全体の未来にも関わっているからです。未来の上には、熱核戦争の危険がわだかまっています。数十万もの新たな広島と長崎の危険です。

過去を忘れることは、自らの将来を失うことです。この疑いようのない真実に、惑星地球のますます多くの住民たちが気づいています。核の爆発が、多くの国々の国民を一つの不幸で結びつけたことを理解し、記憶することが大切です。ジトミル州は日本の中部地方と、すでに数十年、強い友情の絆で結ばれています。そして今日、私たちは、中部の人たちと、そして島国日本の他の国民たちとともにあることが、自分たちの義務だと考えています。核兵器の犠牲となったすべての方々を祈念し、深く頭を垂れます。

日本の大事な友人の皆さん、私たちはあなた方とともに追悼の意を表します！



「チェルノブイリの人質たち」理事 エヴゲーニヤ・ドンチェヴァ  
ジトミルでは、ホステージ基金や絵画教室アートセローの呼びかけで、平和への想いを太陽の絵や折り鶴に表す「平和の太陽キャンペーン」が行われ、多くの子どもたちが参加されました。福島にも、同じ核の被害を受けたものとして、平和を祈り、子ども達の絵や折り紙を贈ってほしいと、チェル救に届けられました。

作品はパネルに飾り、二本松・真行寺の幼稚園に贈り届けられました。

## クリスマスカード キャンペーン & ミルク キャンペーン！

(大川 翔矢)

今年も、クリスマスカードキャンペーン&ミルクキャンペーンが始まりました！ 今年のNたまインターン生の大川翔矢です。

大学生活とプラスして、チェル救の活動をしています。チェル救の活動は、今までの自分をアップデートしていくような感覚で、とてもやりがい

があります。さて、10月になり秋も深まってきました。クリスマスはまだ先ですが、クリスマスカードキャンペーンは始まります！ 今年も、チェルノブイリと福島の子供達にクリスマスカードを贈ります。私たちが彼らの心の支えとなるように、**温かいメッセージや溢れるアイデアで飾り付けた手作りのクリスマスカードをお待ちしております。**(クリスマスカードの締め切りは12月12日必着です。どしどし送ってください。)

さっそく、クリスマスカードキャンペーンは動きます。今年も**ワールドコロボフェスタ**に参加します！ オアシス21「銀河の広場」で、**10月25日**にブース出展します。今年は1日だけの出展となりますが、たくさんのカードが集まることを期待しています。ぜひ、家族やお友達をお誘いして来てください！

また、ミルクキャンペーンも始まります。チェルノブイリの事故から**28年**。まだまだ、ナロジチ地区で安全な食品を手に入れることが難しいのです。内部被ばくの状態が改善されなければ、彼らの未来は不安なままです。このキャンペーンは、赤ちゃんだけでなく児童の栄養の改善にも役立っています。一人でも多くの子ども達に支援が行き届くようにお願いします！

(クリスマスカードキャンペーンとミルクキャンペーンの詳細は、同封のチラシをご覧ください。)



## 「脱原発応援弁護団 結成報告・大飯原発福井地裁判決 報告集会」

に参加して（戸村 京子）

去る8月31日（日）にウイックあいち（名古屋市）にて、「脱原発応援弁護団結成報告・大飯原発福井地裁判決報告集会」が開かれました。脱原発を目指す市民活動を法律面から支えよう、という『脱原発応援弁護団』の弁護士さんたちを初め、『脱原発応援弁護団』を応援したい脱原発を目指す市民等が大勢参集して、会場は多くの立ち見が出る盛況でした。

はじめに北村栄弁護士他から、『脱原発応援弁護団』結成の趣旨説明等がありました。愛知県下60名の弁護士が名を連ねる『応援弁護団』の趣旨は、

- ① 脱原発運動に参加する市民に対する妨害行為・弾圧行為がなされる場合には対抗し、
- ② 実際の事件になった時の準備としてあらかじめ弁護団を結成し、十分な弁護体制を作る、
- ③ 弁護団結成により妨害行為等を未然に防ぐ、
- ④ 実際に刑事弾圧が行われた場合、速やかな刑事弁護活動をする、
- ⑤ 脱原発を志す市民に共感し、市民の運動を支え、脱原発実現の一翼を担うもの

と説明されました。

次に、脱原発の活動を行う団体・市民から、自分たちの活動紹介と弁護団へのひと言メッセージが贈られました。私もチェルノブイリ救済を代表し、脱原発実現の一翼を担うと宣言された『脱原発応援弁護団』に、期待を込めてエールを贈りました。

各地の原発裁判の報告があった後、あの関西電力・大飯原発福井地裁勝訴判決を勝ち取った福井訴訟弁護団の島田広弁護士から報告があり、これまで原発を追認し続けてきた裁判所のあり方が大きく変わるもので、司法は生きていた！と話されました。

判決では、「**具体的危険性が万が一でもあれば、運転差し止めは当然**」と、大飯原発3・4号機の運転を認めず、「**生命を守り生活を維持する人格権に基づいて、侵害行為の差し止めを請求できる**」こと、発電コストに関連しての国富の流失の議論に対し、「**豊かな国土とそこに国民が根を下ろして生活していることが国富である**」と、原告の請求を認め、憲法に保障される人格権によって原発の存在を断じています。

### <伊那谷合宿に参加して>

（名古屋第一法律事務所 吉名）

8月2日（土）・3日（日）に行われたチェルノブイリ救済・中部の合宿に、一般参加者として参加させていただきました。

「合宿にはスタッフ以外でも参加でき、合宿で発言したことに責任は伴わない」と聞いて、「それなら私も参加できそう！」と思い、参加させていただきました。しかし、責任は伴わないと言われても、チェルノブイリ救済・中部はチェルノブイリ事故後ウクライナの支援を続け、福島原発の事故後は福島の支援も続けている、私が最も信頼する団体ですので、「心して臨まなければ」と思っていました。ところが、合宿の雰囲気は終始和やかで、心温まるスタッフのみなさまと過ごすことができました。信州伊那の合宿所へ着いて直ぐに始まった会議では、緊迫するウクライナへ渡航する計画・資金確保・福島での支援・夏に行われた様々な行事の反省など、いろいろなことについて話し合われました。チェルノブイリ救済・中部のスタッフのみなさまは、厳しく辛い環境で生きる人々の中に我が身を置いて、救いの手を差し伸べる人であることを再確認した合宿でした。私が3.11直後、愛知県に対して放射線量の測定を要請したときにも、原発や放射線について多くのことを教えてくださいました。原発事故直後は、私自身も怯えていましたので、チェルノブイリ救済・中部との出会いは私を安心させてくれる存在であり、また、私にできることをやり続ける強さを教えてくれる存在でもあります。今後もいろいろと学びながら、福島のこと、原発のことを考えていきたいと思います。





2011年3月11日から3年6か月...

## 郡山の地に生きて感じること (郡山市 渡辺 裕美)

8月26日(火)、郡山市のセントポール会館で、神野美知江さん(チェルノブイリ救援・中部、看護師)の講演会が開催されました。

テーマは、家族の健康を守るために、私達の衣食住環境の工夫についてで、懇談会形式で行われました。

安心・安全をどうすれば叶うのか、たくさんの知恵をいただき、ここで生きていける確信が持てれば、また、今まで緊張と不安の中でどうにか生活してきた今の現況から抜け出ることができれば...と期待しました。また、癒されたいと願いながら講演会に参加しました。

しかし、結果は思っていたような甘いものではありませんでした。お話しされたことは、今さら言われることではなく、すでに理解はしていたつもりだったのです。傷口に塩を塗られた感じで、私の癒されたいとの思いが一刀両断に打ち砕かれました。一方で、出来る事はすべてやってきたと自負してきた自分の甘さを、改めて思い知らされました。それはわかっています、その通りです。しかし、3年間放射能との緊張関係の中で生活し、今もこれからも、いつまで続くのか終着駅が見えない暗いトンネルから抜け出せない、今の自分の生き方が問われ、ここで生きていく確信が持てない恐怖を感じました。正直辛かったです。

3年経つと、確かに少しずつ今の生活にも慣れて?きたことは確かです。それでも、以前のような日常とは程遠い世界です。自然の中で、太陽の光をいっぱい浴びせながら遊ばせたいと思いつつ、こどもの外遊びは制限し、家族の外出は必要以外控えています。(遠くに行けばお金もかかります...)放射能理解のことでは、私と夫の間でも温度差があり、たわいのないことでいがみ合ったりします。幼稚園・学校の保護者間でも、心を開いてお互いに情報を交換しながら悩みを打ち明けることはほとんどありません。本音の部分は深い闇の中に包まれて、出てくることはありません。声に出して聞いてもらいたいと思いつつ、出せばその後遺症を修復するエネルギーがありません。私を含めて、郡山に住んでいる皆さんは、静かにひっそりと耐えている気がします。一人ひとりの思いが違うので、井戸端会議の話題に上ることもありません。今小学校では、プールや校庭での活動は、放射能の影響を考慮して控えるということは全くありません。それに異を唱えることは大変なエネルギーを必要とします。モンスターペアレントと言われかねません。残念ですが私も貝になっています。

最近、一人息子の長男(小学校2年生)が「疲れた...疲れた」と言いながら私に甘えてきます。あきらかに体力だけでなく、精神的にも弱くなっているのを感じます。息子には放射能の恐さを教えてきました。息子も、だからお外で遊んではだめと言えはあきらめていました。最近、放射能という言葉が息子の口から消えました。あきらめてしまっ、言う元気もないのかもしれない。最近、外遊びのできる場所が限られているため、思いっきり汗をかいて遊ぶこともなくなりました。フクシマの子どもにとっては冬の時代です。

避難して行った人に対しては、当時うらやましさを覚えました。避難したくても、経済的な理由もあって、私たち家族はここに留まる決断をしました。今でもこのことは、心のつかえとなっています。

今もこれからも、緊張と不安の生活は続きます。この苦しい想いから解放されたいと願いながら、それでもこの郡山で生きていかざるを得ない人々の暮らしがあることを、どうぞ心の片隅に覚えていただければ幸いです。



【赤いツブツブの絵(柚木ミサト)】



【赤いツブツブの絵(柚木ミサト)】

## 事務局便り ……菜種の種まきツアーに参加して…

その日、南相馬は爽やかな秋晴れの種まき日和であった。幾年も豊かな稔りを重ねてきたであろう杉内圃場 6 反は、播種を待つばかりに、杉内さん、神谷さん達によって、整然と畝立てが施されていた。先頭が草取り、そして播種、最後に覆土。三位一体で作業が始まった。小さな菜種を揉むようにして播く。我ながら妙に真剣。土をかける作業は、相馬農業高校の生徒たち。あとけなさも残る若い人達が、実は一番頼もしく、淡々と力強く作業をこなす。同行したファーマーF氏。「土は軽くかけるんだよ！」と指導の一声が青空に響く。…来春どんな花をつけてくれるのか。たくさんの菜種を収穫できるのか。畑が少しでもきれいになっているのか…。金色に輝く菜種油「油菜ちゃん」の向こうに、力強く明るい南相馬がよみがえるように！



**ご紹介** 「クリアファイル(¥300/2枚セット)」と  
「油菜(ゆな)ちゃん (¥1,000+税/300ml)」をよろしく！



南相馬市では、復興・再生のための活動が活発に行われています。先日の「菜の花の種まき会」には 113 名の参加があり、そのうち高校生がおよそ 40 名を占めていました。土曜日だというのに、地域の市民活動に参加する純朴な 10 代の若者たち。この貴重な時間を一緒に過ごせたのはとても新鮮でした。ぜひ彼らの気持ちに応えたい！と思います。(美)



## 編集後記

- ☆ちらしの量がほどほど、という理由のみで朝日新聞を購読してきたが、今まで入っていたラシックのちらしも入らなくなった。朝日の読者は見捨てられた…。気の毒なのは販売店です。(佳)
- ☆店頭で整然と並んだ野菜も購買意欲をそそるけど、「形が揃っていないけど…」といただいた野菜の美味しかったこと。私たちが個性的であるように、自然が作り上げたものも個性的。たくさんお金を使うことが贅沢じゃなくて、自然らしさを受け入れる気持ちが贅沢の入り口。(美)
- ☆「アベノミクス」(異次元金融緩和政策)が押し進められた結果、「円安」と「大企業の株価上昇」現象が引き起こされた。その真実とは、金融緩和により大量に発行されたマネー(日本円)が、日本企業の株式購入と土地投機、そして米国債の買い支えなどに使われたため、株式市場にミニバブルが発生しているだけである。しかも、海外から見れば(ドルに換算すれば)、日本の企業の株価は少しも上がっていない(円安と相殺)。一般消費者(庶民)はといえば、平均年収は下がり、円安と消費税増税により物価は上がり、個人消費は一気に▲20%も冷え込んでしまった。「アベノミクス」を「アベノリスク」だと気づいていた人々は今、それが「サギノミクス」であったことを知り、愕然としている。「シープル(羊のように、何ら疑問を持たず従順な人々)」である日本人は、このまま貧困への道を転げ落ちてしまうのだろうか？(J)

〒456-0022 名古屋市熱田区波寄町 20-14

印刷「エープリント」

TEL・FAX (052) 871-9473